第3種郵便物認可

水戸啓明 6年ぶりV

高校サッカー 鹿島学園破り全国切符

第92回全国高校サッカー選手権県大会の決勝が17日、県立カシマサッカースタジアムであった。水戸啓明がPK戦の末、4連覇を狙った鹿島学園を破り、6年ぶり6回目の優勝を決めた。水戸啓明は12月30日から開催される全国大会に出場する。

夏の総体王者・水戸啓明は、序盤から鹿島学園のプレスに手を焼いた。

「相手の出足が早く、うちらしいサッカーができなかった」と巻田監督。中盤でボールを受けられず、持ち味のパスサッカーを封じられると、前半32分にはCKから失点。先制を許した。

目が覚めたのは、失点した後。FWの石川や神山がサイドに流れ、ドリブルから好機を作った。38分には中央でボールをキープした石川のパスから、オーバーラップしたDF阿部のゴールで同点に追いついた。

その後は両チーム決定機をいかせず、延長戦に突入。主力選手が次々と足をつって退いた水戸啓明に対し、鹿島学園は高さとスピードのある2トップを起点にシュート3本を放った。

しかし、水戸啓明のGK黒子や主将のDF会沢を中心とした守備陣が踏ん張り、PK戦に持ち込んだ。

互いに1人ずつ外して迎えた8番手のキックを、黒子が横っ飛びでセーブした。巻田監督は「苦しい戦いだったが、選手たちが最後まで諦めなかった。集大成の試合で、よくやってくれた」とたたえた。

▽決勝

水戸啓明	1	0―0 延長 0―0	1	1―1
		PK 7―6		鹿島学園

PK戦に勝利し、GK黒子のもとに駆け寄る水戸啓明の選手たち＝県立カシマサッカースタジアム

相手に集中 8人目ピシャリ

水戸啓明のGK 黒子 兼汰選手

ゴールラインに立ち、じっと相手キッカーを見つめた。それまでの7人に対してはほとんど、ボールと逆の方向に飛んでいた。

「止めてやろうと焦り、早く動いてしまった。自分の勘を信じて、キッカーに集中しようって」

ひと呼吸置いて横っ飛び。いっぱい左手を伸ばした。タイミングはドンピシャリ。ボールをはじき出すと、雄たけびをあげ、仲間たちの待つセンターサークル付近に向かってかけだした。

正GKだが、背番号は12。昨年の県大会では、背番号1をつける同学年の冨田晃司が正GKだった。小倉伸太郎GKコーチは「そそっかしくて、やんちゃ。それまでは精神的に安定しないことも多かった」。

最終学年になると意識が変わった。「どうしたら冨田に勝てるか、いつも考えた」。身長172㌢の上背のなさを補うため、苦手な高いボールの練習に重点的に取り組んだ。シュート練習ではどっちが多く止められるか、常に競いあった。

PK戦に入る直前、冨田から「信じて待ってるぞ」と声をかけられた。「おう」。そう言って、がっちりと握手を交わした。

黒子は「全国大会でピッチに立てるとは限らない。また明日から、努力していきたい」と話した。（照屋健）

8番手のPKをセーブする黒子

ホーム最終戦飾る

ホーリーホック 監督「来季、力強く」

サッカーJ2の水戸ホーリーホックは17日、今季のホーム最終戦を迎え、京都サンガに2―1で勝った。来季の続投が決まった柱谷監督は試合後、「夢を持って来シーズンも力強いチームをつくっていくのでぜひ応援して」と、8266人の来場者に呼びかけた。

試合は前半25分、ゴール エリア内で味方のパスを受けたFW鈴木が後ろから倒されてPKを獲得。これをMF橋本がゴール右隅に決めて先制した。

後半は京都サンガの反撃を受けた。18分、右サイドから自陣ゴール前に上げられたセンタリングを相手FWに頭で合わせられて同点に。だが33分、左サイドでパスを受けたDF輪湖がゴール前にボールを折り返し、駆け込んだDF石神がゴールネットを揺らしてホーム最終戦を飾った。

ボールを競り合う選手たち＝ケーズデンキスタジアム水戸

原発再稼働問題 「まだ判断ムリ」

東海村長、住民集会で

東海村の山田修村長と住民が村政の課題などについて語り合うタウンミーティングが16、17の両日、村内で開かれた。参加対象は、無作為抽出で選ばれた村内在住の20歳以上60歳未満の住民。真崎コミュニティセンターで開かれた17日のミーティングには、主婦や会社員ら11人が集まった。

住民側からは、原発に対する村長の考え方などについて質問が出た。東海第二原発の再稼働問題について、山田村長は「まだ判断できる状況にはない」などと説明した。

村はミーティングの定員を各会場20人程度としていたが、16日に開かれた二つの会場の参加住民は6人ずつにとどまった。30日にも村内の3会場で開かれる。

語彙・読解力検定 県内でも力試し

水戸などで実施

ことばの力を育むため、朝日新聞とベネッセコーポレーションが共催する「語彙・読解力検定」が県内でも行われ、今回は計1613人が受検を申し込んだ。公開会場での受検は17日、水戸市泉町2丁目の中央ビルであった。団体受検は参加した大学や高校などでそれぞれ実施された。

検定は6月と11月に実施され、朝日新聞の紙面に一定程度出た時事用語や、語彙などを問う。公開会場では、中学生向けの3級、高校生、大学生向けの2級、社会人向けの1級など各級が行われた。

検定のテキストで勉強してきたという稲敷市の高校2年相良瑞穂さん(17)は準2級を受けた。「学校では深くやらないことも学べるし、幅広い教養が身につく感じ。次回もチャレンジしたい」と話した。

高齢者交通事故 4日で6人

県、多発警報

今月13日から4日間、県内で交通事故で者が交通事故でことを受け、県内全域に高齢者事故多発警報を県警によると今年の交通事故16日時点で91人期と比べて31人月に入っても10り6人多い。県での警報発令期機関・団体と連で交通安全の呼うなど強化を図

おくやみ

故人の氏名、死去の宅、葬儀の日時、場敬称を省略させて

高萩 ▼川崎 歳。高萩時、富士祭典セレモ館。長男正平

日立 ▼対馬 77歳。日立午後1時、日立市幸子

常陸太田 ▼ 日、町。20日午後0時半レモニア富士常陸博▼仲村マツエ 新地町592。20日A茨城みずほ大平信

常陸大宮 ▼ 日、20日正午、JAセみどり。長男昌悟16日、81歳。小舟午、おおみや広域聖

水戸 ▼ 94歳。正午、ジャクセン水男利男▼大内善 五平町。20日午後1場。長男浩一▼栗日、61歳。吉沼町20日午後1時、報園橋本とよ 16日、20日午後1時、富士ア富士西原館。長泰 17日、72歳。午前11時、水戸市斎▼藤田稔 15日、21日午後1時、水戸慎一▼八木岡ひろ 歳。渡里町。21日午

郷土力士 星取表

【幕下】

【三段目】